



くすい箱

発行

桐生厚生総合病院 薬剤部

発行責任者 河井 利恵子

編集担当者 山崎 成基

矢古宇 由佳

第64回目のテーマは“抗がん剤と脱毛”についてです。

抗がん剤による脱毛とは

抗がん剤は、正常な細胞に比べて分裂が速いがん細胞をターゲットとして攻撃します。しかしながら、正常な細胞にも影響を与えることがあり、特に分裂が速い毛母細胞（髪のもとになる細胞）は比較的影響を受けやすく、その結果脱毛が起こります。個人差はありますが、抗がん剤治療が始まって、2～3週間後から脱毛が始まります。

脱毛というと髪の毛を思い浮かべる方が多いと思いますが、眉やまつ毛も脱毛します。



脱毛後から回復までの経過

治療終了後、早い人では1カ月（平均3.4カ月）程度で髪が生え始めるとも言われていますが、個人差があります。その後、ショートの間まで生え揃うには半年～1年ぐらかかるようです。また、毛の太さ、色、毛質（巻き毛、ストレート）など元の髪質とは違う毛が生えてくることもあります。時間の経過とともに治療前の状態に戻ることが多いですが、中には回復まで時間がかかる方や、薄毛のまま、元の髪の状態に戻らない方もいらっしゃいます。



脱毛中のケア

普段の生活では、帽子やバンダナ、つけ毛などを活用すると楽に過ごせます。髪が抜けると、頭皮が露出し、暑さ寒さを敏感に感じ、汗や皮脂も出やすくなります。締め付けず、肌触りのよい素材で縫い目が気にならない、すっぽりと頭全体を覆うものがよいでしょう。また、頭皮を清潔に保つことも重要です。

パーマやカラーリングは頭皮への刺激が強いため、抗がん剤治療中は避け、抗がん剤治療終了後から1年ぐらを目安に、皮膚の様子をみて、担当医の許可が出てから始めましょう。



ウィッグについて

ウィッグには、すぐに使える既製品と、出来上がるまでに1カ月程度かかるオーダー品があります。価格も数万円から数十万円以上のものまで幅があります。生活スタイルや好み、予算に合わせて、自分らしくかぶれるウィッグを選んでください。当院の通院治療センターや地域連携室にパンフレットなどを準備していますので、参考にしてください。またお住まいの地域によっては補助金を出している自治体もありますので、合わせてご確認ください。



頭皮冷却法について

当院の乳腺外科では、頭皮冷却装置(PAXMAN)を使用した頭皮冷却法を行っています。脱毛自体を予防するのではなく、抜けてしまった毛が復帰するのを早める効果があるとされています。髪を湿らせて特有のキャップを頭部に密着させ、抗がん剤投与 30 分前から投与中、および投与後 30～90 分、頭皮冷却装置を用いて頭皮を 3℃に冷却します。かなりの長時間頭を冷やすことになるので、人によっては悪寒、頭皮の疼痛、頭痛などが現れることがあります。予約枠や日常ケアの指導、備品(ヘアキャップ等)の準備に費用がかかるなどあり、対象となる方や抗がん剤の種類も異なりますので、担当医にご相談ください。

<<参考資料>>

日本乳癌学会乳癌診療ガイドライン

次回は、“吸入薬の種類と使い方”をテーマに2022年9月発行予定です。